

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	ながおか医療生活協同組合	代表者	羽賀 正人	法人・事業所の特徴	長岡市内で複数の診療所や介護保険事業を運営している法人が2010年4月に開設。地域交流スペースわいが家を併設し機能訓練や足湯ができる環境があると共に地域住民との交流の場にもなっている。隣接地には診療所や複数の介護施設もあり緊密な連携が図れている。日々笑って過ごして頂けるよう個別の対応に重点を置いています。
事業所名	プラット新町	管理者	遠藤 豊		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	2人	人	人	1人	1人	1人	4人	1人	11人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> ●年度当初に外部評価における工程表を作成。計画的に各評価を実施する。また、事業所自己評価に対し、全員が全項目に対し根拠を持って記入できるよう学習会を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●全職員での学習会を実施。趣旨を理解し、根拠を持って記入できるように努めた。 ●工程表通りに進めることができなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●改善計画への取り組み状況は確認できるが、具体的な成果がもう少し目に見える形で挙がってくるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●アセスメント能力向上を図るため、全職員での学習会を開催する。 ●部署会議を利用し、運営推進会議で得た情報を全職員で共有する。
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> ●玄関内2ヵ所とわいが家内に案内表示を設置する。 ●まちの駅の役割りを理解してもらうために回覧板を利用し、気軽に立ち寄って頂けるよう周知に努める。(情報提供、相談窓口の役割り等) 	<ul style="list-style-type: none"> ●案内表示は設置したが、インパクトが足りなかった。 ●回覧板の利用は1回のみとなった。依頼を継続し理解していただくとともにニーズの把握に努める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ●案内表示はあったなという程度の認識。気楽に入っていんだと感じさせるようにしたほうがよい。 ●施設内が見えないから何をしているのかわかりにくい。中での取り組みがみえるようになるとうよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●案内表示を分かりやすく気づきやすい内容、サイズへ変更する。 ●掲示板を利用し、行事を中心とした取り組み・案内を行なう。 ●「来館者への接遇と対応」についての勉強会を行なう。(6~8月)
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ●法人広報誌や地域の回覧板を利用し地域への周知を図っていく。 ●オレンジカフェへ利用者と共に参加し交流を深めると共に周知を図っていく。 ●わいが家にて利用者作品展を開催し来場者に周知を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ●広報誌でのPRは3回実施できた。 ●オレンジカフェには利用者、職員が交代で毎回参加。地域からの参加者と交流を図り、説明会も開催できた。 ●作品展は1ヶ月間通して開催し、来場者への周知には繋がった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●職員の挨拶がよくなったと評価をいただいている。 ●蔵王近辺の方や生協の組合員は広報誌等で知っているが具体的に知っている人は少ないのかもしれない。 ●実際の相談の有無が大切。 ●地域のお祭りや小学校との交流、保育園のお遊戯会にも参加している。 	<ul style="list-style-type: none"> ●町内での回覧板利用を継続的に働きかける。(事業所への回覧依頼も行なう)
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ●包括支援センター、民生委員等、関係機関との情報交換を行い連携を図ります。 ●様々な場面において積極的に挨拶を行い情報収集や関係構築に努めます。 	<ul style="list-style-type: none"> ●報告、連絡、相談を心掛けている。包括支援センターとの情報交換や、虐待の恐れがあるケースでの連携など、スムーズに行なえた。 ●コミュニティーセンター、民児協連絡会等、積極的な関係構築に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●天気がいいといろんな所に出掛けており、閉じ込めている感じはしない。 ●生活のベースはそれぞれの町内にあると思う。ちょっとした集まりに参加するだけでもよいと思います。 ●お試し利用により、契約者以外のかかわりにもなっていると思う。 ●全職員で地域を一軒一軒周り地域の声を聞いています。包括支援センターに連絡をもらったこともありました。 	<ul style="list-style-type: none"> ●民生児童委員連絡協議会を通じ、全ての利用者町内の方と情報交換を行い、ご本人の在宅生活を支える支援に反映させる。 ●計画的な外出計画と、天候に応じた少人数での外出(ドライブ、散歩、お茶会等)を可能な限り実施する。(利用者の意向を反映した内容となるように部署会議で職員への啓蒙活動を行う)

<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●地域で心配な方の情報を得た場合は速やかに包括支援センターへ報告する。また、情報提供をしやすい事業所とするために日頃からの連携強化に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ●包括支援センターとの情報交換や、虐待の恐れがあるケースでの連携などスムーズに行なえたが、運営推進会議を活かした取組みとは別である。会議を有効に活かすには工夫が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ●運営推進会議において把握できた。 ●実際に事例検討は行われていない。 ●今年は民生委員の欠席も多かった。また、委員改正の時期も重なった。 ●具体的に小さな課題にも取り組んでいるので良いと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●運営推進会議において「検討課題」の項目と時間を設け、事業所運営上の課題（地域での取組みや心配な方に対する対応）等について話し合いを行う。 ●運営推進会議メンバーに地域の有識者として複数参加していただき情報量の確保に努める。
<p>F. 事業所の 防災・災害対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●法人の方針はあるが、事業所として地域に即した防災計画となるよう見直しを実施。内容は運営推進会議にも諮り決定する。 ●防災訓練に合わせての運営推進会議の開催。または、防災訓練の案内を提示し、参加見学の依頼をしていく。 ●災害時に頼りにされる事業所となるため地域のニーズを把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●防災計画の見直しは行なっているが運営推進会議には諮っていない。 ●会議参加者から防災訓練の見学をしていただくことができた。 ●災害時に関する地域との情報交換が行なえなかった。ニーズの把握とともに、周知の取組みも課題となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●事業所の防災計画は確認できた。 ●会議参加者から防災訓練を見学していただき、意見をいただけた。 ●町内の防災訓練が実施されていないため参加もできていない。蔵王町内の訓練に参加してみてもどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ●回覧板、掲示板を利用した防災訓練見学、参加の呼びかけを行う。 ●町内会長に依頼し、町内の実情に添った効果的な方法について助言をいただく。 ●法人広報誌に訓練の案内を掲載し、地域からの参加を呼びかける。